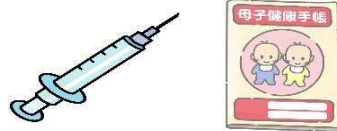


麻しん（はしか）患者の発生について

平成30年3月20日、沖縄県内で旅行客が麻しんと診断され、この旅行客と接触歴のあった者や同じ施設を利用した者を中心に、断続的に沖縄県内で麻疹患者の発生が続いています。

麻しんは発症すると、特異的な治療法はなく、感染力が極めて強いウイルス感染症ですが、**予防接種で予防が可能**です。

麻しん（はしか）にかからないためには2回の麻しんワクチン接種が必要です。ご自身の接種記録を母子手帳で確認しましょう。



麻しんの症状

感染すると、約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3日熱が続いた後、39度以上の高熱と発疹が出現します。肺炎・中耳炎を合併しやすく、患者1000人に1人の割合で脳炎が発症するといわれています。

感染経路

麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染でヒトからヒトへ感染し、**その感染力は非常に強い**といわれており、感染する時期は発症の1日前から解熱後3日後までとされています。

潜伏期間

約10日～12日間

留意事項

麻しんを疑う症状があった場合は、必ず受診前に医療機関に連絡し、麻しんを疑う旨を伝えた後、医療機関の指示に従い早急に受診してください。また、受診の際は周囲に感染を拡げないよう公共交通機関の利用は避けてください。

問い合わせ先：三豊市健康課 電話73-3014

